

教科目名 地域計画学 (Regional Planning)

学科名・学年 : 機械・環境システム工学専攻 2年

単位数など : 選択 2単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
<p>地域計画は、近年の市町村合併に見られるように、広域化・情報化・環境保全という時代の要請を背景に、その重要性はとみに増大している。しかしながら、地域計画の学問体系は必ずしも確立されたものではなく、地域経済学の成果に負うところが多い。そこで、本講義では、グローバル化の中で大きく変貌する地域経済の実態を具体的に示しながら、その最新局面を地域経済学の立場から解説するものである。内容としては、地域経済構造・地域問題論、地域開発政策論、地域づくりという3つの大きな柱を立て、各々具体的な事例を交えながら、分かりやすく解説したい。</p>			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (E1), JABEE 目標 (d2a)	
<p>(1) 地域計画・地域経済の基礎的知識が理解できる。(定期試験)                  (2) 地域経済構造、地域問題論、地域開発政策論という3つの要素の関連及び全体像が理解できる (定期試験)                  (3) レポート課題を通して地域の問題を発見できる。(レポート)                  (4) プレゼンターと討論できる。(プレゼンテーション)</p>			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	1. グローバル化の中の地域経済	<p>○地域と地域、国家としてのまとまり、さらに、国家と国家との関係を通じて、重層的な構成を持った地域経済の仕組みを理解する。</p> <p>○日本の地域経済の形成過程を理解する。</p> <p>○1980年代後半以降明確な姿をとってきたグローバル化の様相と、それが地域経済に与えるインパクトを学ぶ。</p> <p>○グローバル化と同時に進行した産業構造の転換が、日本の地域経済や就業構造、住民生活をどのように変えているかを学ぶ。</p> <p>○都市及び農村の変貌とそこでの地域問題を明らかにする。</p>	【理解の度合い】
2	(1) 概説		
3	(2) 地域主義とグローバリズム		
4	2. 現代日本の地域経済と地域問題		
5	(1) 地域経済の形成過程		
6	(2) 経済のグローバル化と地域インパクト		
7	(3) 産業構造の転換と地域経済構造		
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説	<p>○自身の理解力を分析し、分からなかった部分を理解する。</p> <p>○第一次から第五次までの全国総合開発計画の全体像を明らかにする。</p> <p>○水資源開発政策の成果と課題を検討する。</p> <p>○素材供給型重化学工業の地方誘致政策の効果と問題点についてプレゼンを行う。</p> <p>○先端技術産業の地方誘致政策の効果と問題点についてプレゼンを行う。</p> <p>○リゾート産業の地方誘致政策の効果と問題点についてプレゼンを行う。</p>	【理解の度合い】
10	3. 地域開発政策の検証		
11	(1) 現代地域開発政策の展開		
12	(2) 水資源と地域開発政策		
13	(3) プレゼンテーション(重化学工業と地域開発政策)		
14	(4) プレゼンテーション(先端技術産業と地域開発政策)		
15	(5) プレゼンテーション(リゾートと地域開発政策)		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	(1) 授業は毎回輪読形式で行い、質問は随時受け付ける。 (2) プレゼンテーションはレポートを基にパワーポイントを使用して行う。		【総合達成度】
教科書	岡田・川瀬・鈴木・富樫著『国際化時代の地域経済学 改訂版』, 有斐閣アルマ		
参考図書	日本まちづくり協会編, 「地域計画第2版」, 森北出版		
関連科目	交通システム工学, 環境計画, 都市計画, 景観デザイン		
総合評価	<p>達成目標の(1)~(4)について定期試験とレポート&amp;プレゼンで評価する。                      総合評価=0.7×(2回の定期試験の平均)+0.3×(レポート&amp;プレゼン)                      なお、授業態度により、評価点からその20%を上限として減点する。                      総合評価が60点以上を合格とする。</p>		